

第35回（2003年度）サントリー音楽賞は
野平 一郎 氏に決定

財団法人 サントリー音楽財団（理事長・堤剛）は、は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第35回（2003年度）受賞者を野平一郎氏に決定しました。

●選考経過

1. 2004年1月12日（月・祝）東京・丸の内の東京會館において、選考委員8名により第一次選考を行い、「候補者」を選定した。
2. 引き続き3月16日（火）東京・千代田区紀尾井町のホテル・ニューオータニにおいて最終選考会を開催、選考委員8名により慎重な審議の結果、第35回（2003年度）サントリー音楽賞受賞者に野平一郎氏が選定され、同日理事会において正式に決定された。

●賞金は700万円。

●野平一郎氏の贈賞理由は別紙のとおり。

●選考委員は下記の8氏。

礒山 雅・伊東信宏・岡部真一郎・白石美雪
沼野雄司・根岸一美・船山 隆・三宅幸夫

（敬称略・50音順）

野平 一郎

<贈賞理由>

野平一郎氏のいない日本の音楽生活は、ほとんど考えることができない。それほど野平氏の活動は幅が広く活発であり、多方面に上質の貢献を行っている。作曲家としての創作力、ピアニストとしての技術と合奏力、理論家としての分析力、謙虚で献身的な人柄が分かちがたく一体化し、それらを総合する個性を開花させつつあるのが、稀有の音楽家・野平一郎である。

2003年の野平氏は、合唱曲《光の庭》、ピアノ協奏曲（バークレーにて初演）、《戸外にて—— ヴィオラ・ソロのための》、《錯乱のテクステュアIV —— チェロとピアノのための》《ベートーヴェンの記憶 —— ピアノとコンピューターのための》などの新作を発表し、伝統と知的に対峙する作曲家、伝統を再構築して聴き手に共感と楽しみを喚起する作曲家としての本領を発揮した。またピアノ演奏においては、浜離宮朝日ホールにおけるリサイタルを初め、種々の室内楽で多彩なアーティストと共演し、数多くの意欲的なステージを作り出した。中でも「いずみホール・ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ連続演奏会」の構成と2度にわたる出演、とりわけ《ディアベリ変奏曲》の演奏は、秀逸なものであった。またベートーヴェンのピアノ・ソナタの全曲録音も新しいベートーヴェン演奏に寄与する画期的なものとして高く評価されている。

<略 歴>

1953年生まれ。東京芸術大学、及び同大学院修士課程作曲科修了後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院で作曲とピアノ伴奏法を学ぶ。作曲をベッツィー・ジョラス、セルジュ・ニグの各氏に、ピアノ及び伴奏法を高良芳枝、アンリエット・ピュイグ＝ロジェの各女史に師事する。ピアニストとしてフランス国立放送フィルハーモニック管弦楽団、バーゼル放送交響楽団、アンサンブル・アンテルコンタンポラン、ロンドン・シンフォニエッタなどにソリストとして出演する一方、内外の名手と数多く共演している。また作曲家としてフランス文化省、IRCAMからの委嘱作品を含む多くの作品が、内外で放送されている。95年第13回中島健蔵音楽賞、96年第44回尾高賞、文化庁芸術選奨文部大臣新人賞、第11回京都音楽賞実践部門賞を受賞。90年～02年東京芸術大学助教授。

(ご参考)

サントリー音楽賞について

(財) サントリー音楽財団では、1969年の設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも顕著な功績のあった個人又は団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」(旧名・鳥井音楽賞)を贈呈しています。賞金は700万円。

これまでに「サントリー音楽賞」を受賞した方々は下記の通りです。

第1回	1969年度	小林 道夫 (ピアノ・チェンバロ・指揮)
第2回	1970年度	堤 剛 (チェロ)
第3回	1971年度	三谷 礼二 (オペラ演出)
第4回	1972年度	小川 昂 (理論・評論)
第5回	1973年度	ICUオルガン委員会 (国際基督教大学)
第6回	1974年度	秋山 和慶 (指揮)
第7回	1975年度	栗林 義信 (声楽) 山根 銀二 (評論)
第8回	1976年度	芥川 也寸志と新交響楽団
第9回	1977年度	常森 寿子 (声楽)
第10回	1978年度	松村 禎三 (作曲)
第11回	1979年度	吉原 すみれ (打楽器)
第12回	1980年度	妹尾 河童 (舞台美術) 特別賞 江戸 英雄 (第1回日本国際音楽コンクール会長)
第13回	1981年度	柴田 南雄 (作曲)
第14回	1982年度	外山 雄三 (指揮) 特別賞 原 清 (ザ・シンフォニーホール建設グループ代表)
第15回	1983年度	鈴木 敬介 (オペラ演出)
第16回	1984年度	豊田喜代美 (声楽)
第17回	1985年度	日本テレマン協会 (室内管弦楽団・合唱団)
第18回	1986年度	内田 光子 (ピアノ) 若杉 弘 (指揮)
第19回	1987年度	岩城 宏之 (指揮)
第20回	1988年度	林 康子 (声楽)
第21回	1989年度	有田 正広 (古楽演奏)
第22回	1990年度	武満 徹 (作曲)
第23回	1991年度	尾高 忠明 (指揮)

第24回	1992年度	練木 繁夫 (ピアノ)
第25回	1993年度	五嶋みどり (ヴァイオリン)
	特別賞	ウォルフガング・サヴァリッシュ (指揮)
第26回	1994年度	和波 孝禧 (ヴァイオリン)
第27回	1995年度	今井 信子 (ヴィオラ)
第28回	1996年度	園田 高弘 (ピアノ)
		湯浅 譲二 (作曲)
第29回	1997年度	東京交響楽団
第30回	1998年度	林 光 (作曲)
第31回	1999年度	三善 晃 (作曲)
第32回	2000年度	飯守泰次郎 (指揮)
第33回	2001年度	一柳 慧 (作曲)
第34回	2002年度	小澤 征爾 (指揮)
		木村かをり (ピアノ)
特別贈賞	1979年6月	巖本真理弦楽四重奏団
〃	1997年8月	黛 敏郎 (作曲)

以 上